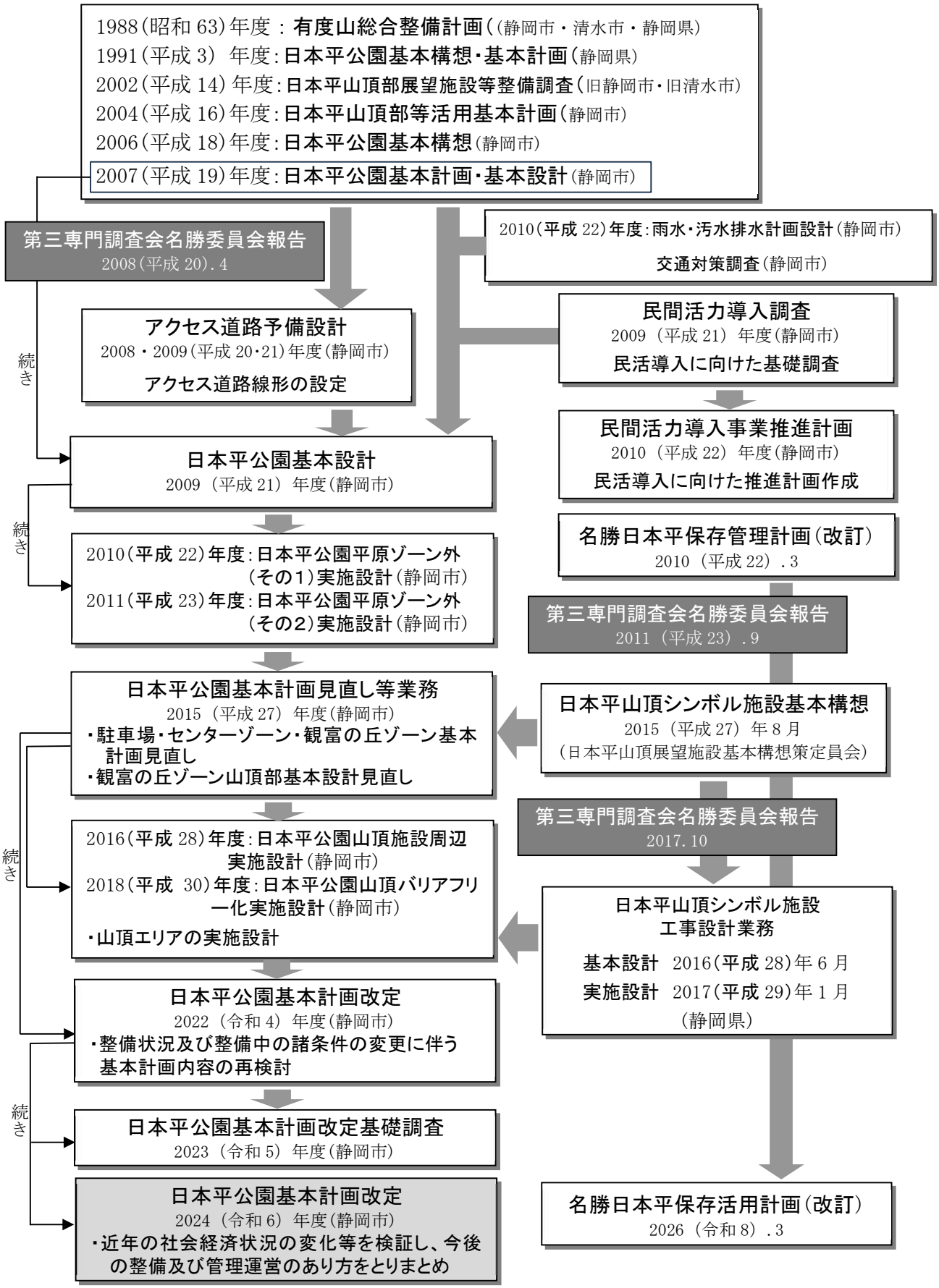
1　これまでの経緯

（1）これまでの経緯



≪日本平公園基本計画について≫（根拠法令等　都市計画法 11 条　都市計画公園）

・1937（昭和 12）年に 88.5ha が都市計画決定された日本平公園は、1953（昭和 28）年に静岡県により駐車場・トイレ・芝生広場が整備された以降、長く未着手の状態が継続。
・1992（平成４）年に静岡県が「日本平公園基本構想・基本計画」を策定。
・その後合併後の新静岡市に整備主体が移り、県の計画を引継ぐ。公園整備を具体化するため基本構想を経て 2007（平成 19）年に策定したものが「日本平公園基本計画」。
・「日本平公園基本計画」では事業着手に主眼が置かれ、都市計画決定区域 88.5ha のゾーニングに言及する一方、計画目的を「利活用を主目的とする～比較的平坦な区域 33.0ha について基本計画を行う」とした。
・2007（平成 19）年度に「日本平公園基本設計」を策定、2010（平成 22）年に整備事業に着手。
・2015（平成 27）年度、山頂部へのシンボル施設設置の基本構想を静岡県が策定（日本平山頂展望施設基本構想策定員会)し、これに伴い、同年山頂部の基本設計、翌 2016（平成 28）年度実施設計。翌年より日本平夢テラスを含む山頂部の工事に着手し、2018（平成 30）年 11 月、山頂部を開園。
・これと並行して、旧パークウェイ及び給水本管設備工事を進め、現在に至る。

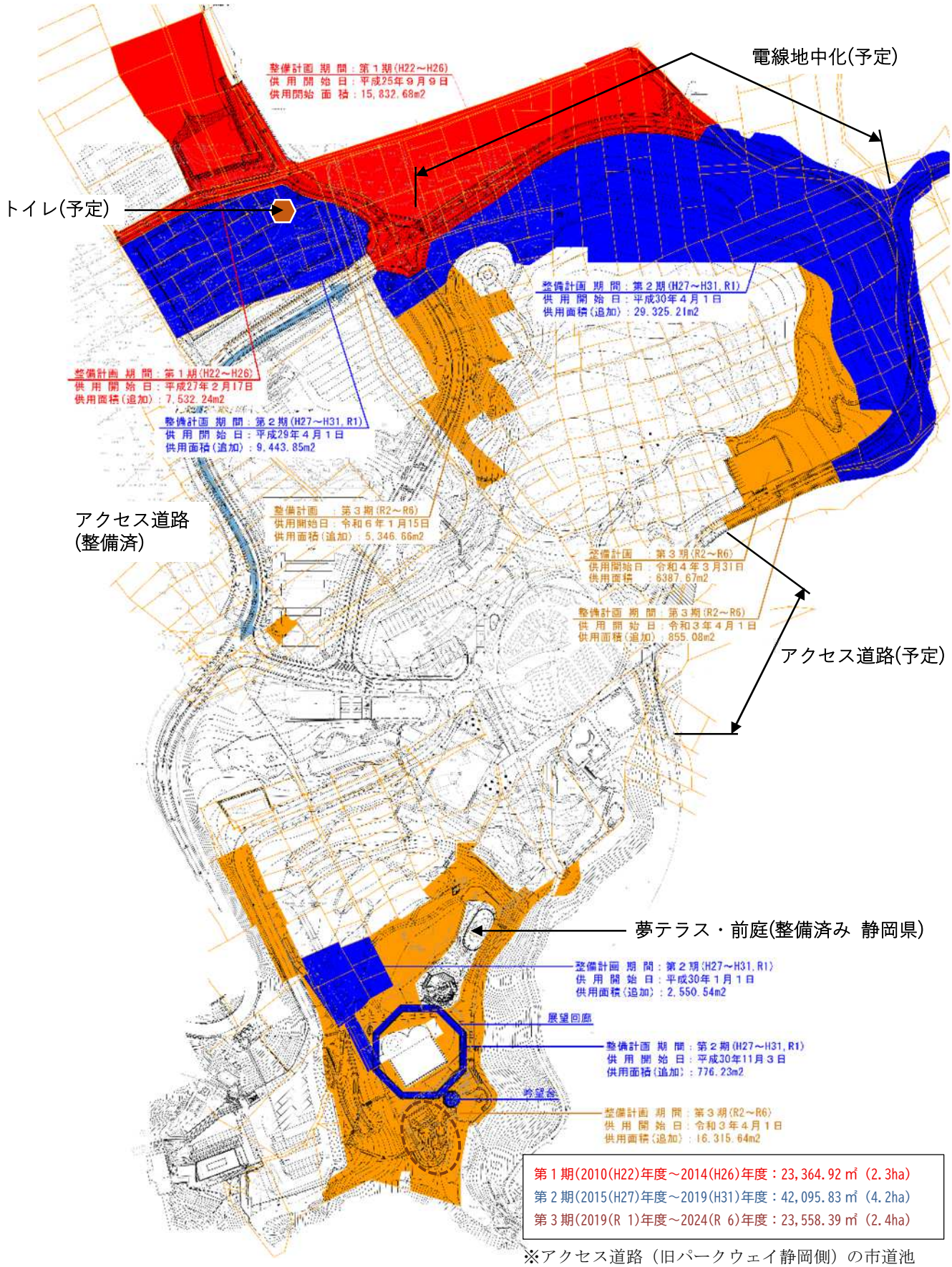
≪基本計画策定までの経緯≫

計画等の名称	策定時期	策定主体	区域	主な目的
日本平公園都市計画	1937 年 (昭和 12)	静岡県	88.5ha	名勝仮指定(1932)、風致地区指定(1933)後に決定
日本平公園 基本構想・基本計画	1992 年 （平成４）	静岡県	88.5ha	都市計画決定後、日本平公園についての初めての計画
日本平山頂部 展望施設等整備調査	2003 年 （平成 15）	旧静岡市 旧清水市	有度山 一帯	有度山の土地活用の見直しが主体 山頂部 88.5ha のゾーニングの見直し
日本平公園基本構想	2006 年 （平成 18）	静岡市	88.5ha	山頂部展望施設等整備調査で取り上げていない内容の検討
日本平公園基本計画	2008 年 （平成 20）	静岡市	88.5ha (33.0ha)	公園整備計画の具体化・現実化に向けた課題整理、解決方策の検討を実施
日本平公園基本計画改定等	2015 年 （平成 27）	静岡市	33.0ha の一部	日本平夢テラス整備に伴う基本計画の見直し 山頂部基本設計の見直し
日本平公園基本計画改定	2022 年 （令和４）	静岡市	33.0ha の一部	施設整備の進捗や諸条件変更に伴う見直し

《基本計画図（現行・2022（令和４）年度改定)》



《これまで（2023(令和５)年度）の取組み》



第１期(2010(H22)年度～2014(H26)年度：23,364.92㎡（2.3ha)
第２期(2015(H27)年度～2019(H31)年度：42,095.83㎡（4.2ha)
第３期(2019(R 1)年度～2024(R 6)年度：23,558.39㎡（2.4ha)

※アクセス道路（旧パークウェイ静岡側）の市道池田日本平線交差点までの区間の整備が完了。

（2）主な公園履歴

1）近年の経年史

1922（大正 11）年	徳富蘇峰が杉原山からの眺望を絶賛し、「富士見台」と名づけ望嶽の詩碑を建立
1926（大正 15）年	草薙駅開設
1926（大正 15）年	徳富蘇峰が日本平に登り、「実に天下第一と申し支えあるまいと思う」と山頂からの風景を絶賛
1927（昭和 2）年	日本百景　平原の部入賞（大阪毎日新聞・東京日日新聞主催）
1932（昭和 7）年	名勝仮指定
1933（昭和 8）年	有度山風致地区指定
1934（昭和 9）年	日本平登山道路開通（旧清水市 通称「旧道」）
1935（昭和 10）年	徳富蘇峰が選んだ 4 箇所の富士山展望地点に顕彰碑を建立 清水港から日本平を経て狐ヶ崎に下るハイキングコースを設定
1937（昭和 12）年	日本平公園都市計画決定
1950（昭和 25）年	日本観光地百選　平原の部　第 1 位（毎日新聞社主催）
1951（昭和 26）年	日本平県立自然公園指定
1957（昭和 32）年	日本平と久能山東照宮を結ぶロープウェイ開通
1959（昭和 34）年	国指定「名勝」
1959（昭和 34）年	日本平ゴルフ場開業
1964（昭和 39）年	日本平パークウェイ(静岡)開通
1972（昭和 47）年	清水日本平パークウェイ開通
1979（昭和 54）年	日本観光地百選　読者コンクール　平原の部　第 1 位（週間読売主催）

2）直近の主な出来事

2010（平成 22）年 12 月	久能山東照宮本殿、石の間、拝殿が国宝に指定
2012（平成 24）年	市道北矢部日本平線整備
2012（平成 24）年 9 月	日本平ホテルリニューアルオープン
2014（平成 26）年	市道北矢部日本平線、市道馬走 3 号線整備
2016,2017（平成 28,29）年 2019,2021（令和 1,3）年	平原ゾーン芝生広場整備 併せて平原ゾーンの一部開園
2016（平成 28）年 8 月	「日本夜景遺産」(日本夜景遺産事務局)に登録
2016（平成 28）年	市道北矢部日本平線整備
2016（平成 28）年 10 月	日本平夜市スタート（毎月第 4 土曜日）
2017（平成 29）年	市道旧道日本平線整備
2018（平成 30）年	ラウンドアバウト交差点整備
2018（平成 30）年 4 月	久能山東照宮の夜間拝観開始(毎週土、日、祝日)
2018（平成 30）年 11 月	日本平夢テラスオープン。併せて山頂エリア開園
2019（令和 1）年 10 月	第 11 回日本夜景サミット(夜景サミット 2019in 静岡)開催
2020（令和 2）年	市道旧道日本平線整備
2021（令和 3）年 3 月	日本平ロープウェイ駅舎「門前の恵みたいらぎ」オープン
2022（令和 4）年 3 月	日本平ロープウェイレストラン「はなあおい」オープン
2022（令和 4）年 4 月	日本平ホテル新レストラン棟「ガーデンコート」オープン

■日本夜景遺産

夜景の美しさや他に類をみない特徴、地域特有の歴史や文化的価値などといった特色をもつ観賞地、及びその価値を認定し、日本の景勝地として国内外に魅力を訴求するプロジェクト。日本夜景遺産には、(1)高台などから鑑賞する自然夜景遺産、(2)展望台などの高層施設から鑑賞する施設型夜景遺産、(3)人工的な照明で照らし出された夜景を観賞するライトアップ夜景遺産、(4)夜祭りや送り火といった伝統的な行事にかかわる歴史文化夜景遺産の 4 種類がある。

2004（平成 16）年に発足した非営利団体の日本夜景遺産事務局（東京都中央区勝どき）が、候補地として選んだ夜景や観賞場所の調査、分析などを行い、毎年 10～20 か所ほどを選定している。認定基準としては、夜景が普遍的価値をもち、安全でだれもが楽しめる夜景観賞地であること、芸術的価値や地域の独自性が表れていることなどが重視されている。第 17 回（2022(令和 4).8.22）までに全国で 270 か所が認定されている。(日本大百科全書(ニッポニカ))



■日本平夜市（よいち）

日本平の「日本夜景遺産」登録をきっかけに、“日本平の夜のイメージを一新する”をコンセプトに地元有志など 10 代～30 代で実行委員会をつくり、日本平観光組合や、地元住民のサポートを受けて 2016(平成 28)年 10 月からスタートした夜型マルシェ。県営第 1 駐車場をメイン(2022(令和 4)年 10 月、11 月は平原ゾーン大芝生広場で開催）に毎月第 4 土曜日に開催し、現在では最大で 70 店舗以上の出店や、1 日で 1 万人ほどの来場者があるなど、静岡注目のイベントへと成長した。

